

大東文化大学 東洋研究所所報

2011.6 No.55

目次

李嶠雜詠詩注について 福田 俊昭 ……………	1
2011 年度東洋研究所共同研究課題 ……………	2
〔国際交流講演会〕	
東西の古典における「見る」ことの呪性と恋愛 —神話的原型より文学的トポスへ—	
ルカ・カッポンチェリ氏 ……………	4

〔国際交流〕韓国より東国大学校・威徳大学校の 共同研究チーム来訪 ……………	4
2010 年度東洋研究所共同研究班活動報告 ……………	5
人事・名簿 ……………	8
2010 年度東洋研究所会議報告 ……………	9
2010 年度発行『東洋研究』 ……………	9
新刊案内 ……………	10

李嶠雜詠詩注について

東洋研究所教授 福田 俊昭

初唐の李嶠（645～714）に「雜詠詩」と呼ばれる五言律詩 120 首がある。その数から百廿詠詩、百詠詩とも呼ばれ、内容面から詠物詩とも呼ばれている。この詩集が日本に伝来したのは平安時代ともいわれる。それは嵯峨天皇（809 年即位）が雜詠詩を書写された宸筆が伝わっているからである。その後、日本では平安・鎌倉・室町・江戸時代へと伝播し、写本や版本が残されている。一方、中国では李嶠の雜詠詩が出現してまもなく、その雜詠詩に張庭芳が注を付し、それ以来、次々と詩注本が出た痕跡がみられる。しかし、未だに定説化されていない。そこで卑見ながら種々の詩注本の存在することの一端を紹介しておく。

1. 張庭芳注

詩注本で注釈者が明瞭なのは張庭芳である。慶応大学図書館に所蔵する詩注本（以後、慶大詩注本と呼称する）と天理大学図書館に所蔵する詩注本と関西大学図書館に所蔵する詩注本と尊経閣に所蔵する尊経閣詩注本には冒頭の詩集名の横に李嶠と並んで「張庭芳 注」の文字があるので、これは疑う余地はない。

2. 趙琮註

「雜詠詩」に趙琮註があったことを指摘したのは阿部隆一氏である。それを紹介したのは池田利夫氏である。池田氏は「慶應義塾大学図書館蔵の嘉元四年（1306）写の性靈集略注の中に百詠の鏡の詩と注がある」とその所在を記している。国文学研究資料館の山崎誠もこれを承けて雜詠詩の逸文と慶大詩注本の注文を挙げて紹介している。それは次の如くである。

臺鏡者、李嶠鏡詩曰、含情朗魏臺。註云、魏建女殿有方鏡。高五尺廣二尺。在庭中、人向

之寫人形心府云云。趙琮註云、魏文帝有銀鏡臺。

末尾にみえる趙琮註がそれである。山崎氏はこの詩注にみえる趙琮註と現存する張庭芳注とは別注であることを指摘し、更に平安末期の藤原敦光の『秘藏宝鑰鈔』に

百詠云、神女向山廻。（中略）趙琮（琮）注（注）、神女賦曰、妾爲楚巫山之女也。朝行雲、暮行雨也。蓋李公之幽致也。

とあるのを引用し、趙琮註の存在を証明している。『秘藏宝鑰鈔』にはこのほかに

百詠云、逐舞花光動（中略）趙琮（琮）注、趙飛燕能舞。宛如流風之回雪之。

がある。これに拠って趙琮註が存在していたことは明らかである。

3. 張方注

張方注を発見したのは太田晶二郎氏である。太田氏は宋の朱翌の『猗覺寮雜記』にみえる

紅梅詩云、南枝向暖北枝寒。李嶠云、大庾天寒少、南枝獨早芳。張方注云、大庾嶺上梅、南枝落、北枝開。

の中に張方注のあることを見出したのである。

4. 謀氏注

曩に 2. 趙琮註の所で、趙琮註の前に注文があったが、注釈者の名がないので、触れなかったが、この注を某氏注とすると、計 4 種の注釈が存在していたことになる。

4 人目の注釈者を解明するところまでは至らなかったが、明治以来、張方は張庭芳の誤りであるという説はここに至って瓦解したといえる。

※7 ページ「研究員消息」も併せてご覧ください。

2011 年度 東洋研究所共同研究課題

(専)＝専任研究員、(担)＝兼担研究員、(任)＝兼任研究員、(特)＝特別兼任研究員)

1 班	東洋における異文化の本質的相違性に関する研究
	<p>期間 2010～2012年度（研究期間中）</p> <p>メンバー（11名） 専松本照敬〔主任〕 福田俊昭・兵頭徹・山田準・岡崎邦彦・小林春樹 担中村昭雄・新里孝一・片岡弘次・田辺清・井上貴子</p> <p>概要 今日の複雑な社会情勢を眺める人は、多様な価値観の存在を相互に認め合うことの必要性を痛感するであろう。地球という有限な環境の中で、多くの生命が共存する社会の在り方が模索されねばならない。本共同研究は、こうした「共生社会」の創造を視野において、東洋における異文化及び東西文化に見られる相違性を抽出することを目指している。異文化の根底にある相違性が認識されれば、相互理解への途も開けてくるであろう。21世紀における新しい社会の創造を探求して先駆的な研究を進めていきたい。</p>
2 班	歴史的にみた中国の対少数民族政策と少数民族の伝統的社会
	<p>期間 2011～2013年度（継続）</p> <p>メンバー（5名） 担岡田宏二〔主任〕 村井信幸 任谷口房男・由川稔 特加治明</p> <p>概要 今日の中国は、漢族と55の少数民族を含む56種の民族によって構成される多民族国家であり、中国において漢族の対少数民族関係がもつ意義は大きく、漢族と少数民族との関係は長い歴史を通じて形成されてきたものである。そこで本研究では、過去において両者のあいだにはどのような関係があり、漢族などによって形成された中国歴代王朝は異民族と呼ばれた少数民族に対してどのような政策をとってきたか、また少数民族側の政治や伝統的な文化、社会組織がどのようなものであったか、などといった点についての実証的な研究を行う。</p>
3 班	中国 21 世紀の発展と課題
	<p>期間 2009～2011年度（研究期間中）</p> <p>メンバー（15名） 専岡崎邦彦〔主任〕 担内田知行・柴田善雅・鹿錫俊・齊藤哲郎・篠永宣孝・内藤二郎 任安藤正士・伊藤一彦・上野英詞・植松希久磨・窪田道夫・特小島麗逸・近藤邦康・中島宏</p> <p>概要 21世紀を迎えて、中国の急速な経済発展はアジアばかりか、世界のあらゆる方面に大きく影響を及ぼしている。とりわけ近年は、東アジア諸国の共同体構想という新たな展開をむかえ、中国の対外戦略、国内政治の大きな変化の時代にさしかかっている。本研究はこうした視点に立って今後中国の行方を様々な方面から検討し、中国の発展戦略と今後の問題点を見極め、明らかにすることである。さらに、大学各学部やアジア研究に関する研究会との合同研究会を通じて、中国に対する理解と研究方法の発展に貢献したい。</p>
4 班	昭和社会経済史の総合的研究
	<p>期間 2011～2013年度（継続）</p> <p>メンバー（5名） 専兵頭徹〔主任〕 担大杉由香・小湊浩二・武田知己・任石井寛治</p> <p>概要 第4班では、『昭和社会経済史料集成』の刊行に際し、第I期の「海軍省資料」全30巻を完結し、ついで第II期「昭和研究会資料」（全7巻）も完結し、別巻の総目次・総索引の刊行を残すのみとなった。そこで本研究班では昭和史の総合的な研究を本格的に進め、研究課題の設定と研究発表とを継続しながら研究成果物の刊行に向けた活動を進めていきたい。</p>
5 班	日中文学の比較文学的研究—『藝文類聚』を中心にして—
	<p>期間 2011～2013年度（継続）</p> <p>メンバー（8名） 専福田俊昭〔主任〕 担日吉盛幸・浜口俊裕・中林史朗・藏中しのぶ・任成田守・芦川敏彦 特遠藤光正</p> <p>概要 本邦に伝来する最古の現存類書の『藝文類聚』は我が国の古典文学に多大の影響を与えていることは周知の事実である。それが今日に至るまで雑家の書として等閑視されてきた嫌いがある。それ故、未読解の本書を訓読して、原典との校勘、典拠の解明、索引の作成をすることは、単に国文学への影響のみならず、類書学上においても大いに貢献するものであると考えられる。その研究成果を逐年刊行して今日に及んでおり、斯学の評価を得ている。</p>

6 班	大西洋世界とインド洋＝太平洋世界を結ぶもの：西欧植民地主義再考
	<p>期間 2011～2013年度（継続）</p> <p>メンバー（6名） 専山田進〔主任〕 担岡倉登志・瀧口明子・原隆一 任齋藤俊輔 特生田滋</p> <p>概要 西欧植民地主義の成立、発展、機能、思想的背景については数多くの研究がなされてきた。これら西欧植民地主義の歴史研究は、ヨーロッパと新大陸つまり大西洋世界、ヨーロッパと旧大陸つまりインド洋＝太平洋世界を対象とし、それとは別に植民地宗主国の歴史研究が存在した。これら大西洋世界における西洋植民地主義の歴史研究からは太平洋世界における植民地主義が見えてこない。逆にインド洋＝太平洋世界における西欧植民地主義の歴史研究からは、大西洋世界の植民地主義は見えてこない。このように三大研究対象を比較統合した研究にはなかなか行き当たらない。そこでこの研究班では、大西洋世界、植民地宗主国、インド洋＝太平洋世界の三大地域を結び紐帯としての植民地主義の機能を明らかにすることを目的として、いくつかの個別的研究を分担して実施しようとするものである。</p>
7 班	唐・李鳳撰『天文要録』の研究（訳注作業を中心として）
	<p>期間 2010～2012年度（研究期間中）</p> <p>メンバー（11名） 専小林春樹〔主任〕 担渡邊義浩 任小坂真二・小林龍彦・近藤正則・中村聡・中村士・細井浩志・山下克明 特進藤英幸・濱久雄</p> <p>概要 第1冊（巻一）を上梓した天下の孤本である、前田尊経閣文庫蔵『天文要録』（唐、李鳳撰）の、訳注を中心とした研究を継続する。月1度の研究会の開催、および、研究計画終了年度における、研究成果の出版は研究所の研究班として果たすべき最低限度の義務である、という第七班研究班員全員の共通かつ確固たる認識に基づき、2011年度、2012年度には、それぞれ『天文要録』第2冊（巻四）、同第3冊（巻五）の訳注原稿を作成する。</p>
8 班	和漢比較文学の研究－『古金石逸文』を中心にして－
	<p>期間 2009～2011年度（研究期間中）</p> <p>メンバー（3名） 専福田俊昭〔主任〕 担藏中しのぶ 任マリア・キアラ・ミリオーレ</p> <p>概要 ここでいう「古金石逸文」とは日中漢詩文の墓誌銘をいう。その研究は、まだ緒に着いたばかりで、訓読は勿論のこと、注釈書さえない。この研究班が先鞭となるべく、本文の翻刻を始め、校異、訓読、語釈、現代語釈を行い、考説・参考などを加えて刊行することを目標とする。尚、「古金石逸文」に関連する書籍の研究も含む。これが日本文学の研究への一助となれば幸甚である。</p>
9 班	茶の湯と座の文芸
	<p>期間 2011～2013年度（継続）</p> <p>メンバー（5名） 担藏中しのぶ〔主任〕 専福田俊昭 任相田満・安保博史・矢ヶ崎善太郎</p> <p>概要 平成16年度～18年度日本学術振興会科学研究費補助金・基盤研究（C）（2）「茶の湯と座の文芸の本質の研究－『茶譜』を軸とする知的体系の継承と人的ネットワーク」の成果および、2008～2010年度の東洋研究所研究班「茶の湯と座の文芸」の成果として刊行した『茶譜 巻一注釈』『茶譜 巻二注釈』『茶譜 巻三注釈』を発展的に継承すべく、江戸時代中期寛文年間の成立とされる茶道百科事典『茶譜』全十八巻の注釈研究を継続しておこなう。研究分担者は、藏中しのぶ（日本文学・上代中古文学）、福田俊昭（中国文学）、相田満（情報学・中古中世文学）、安保博史（日本文学・近世文学）矢ヶ崎善太郎（建築史・茶室建築）で構成し、茶道文献を対象とした学際研究をめざす。</p>
10 班	『晉書』の研究
	<p>期間 2010～2012年度（研究期間中）</p> <p>メンバー（9名） 担渡邊義浩〔主任〕 専小林春樹 任池田雅典・石井仁・小林聡・仙石知子・高橋康浩・町田隆吉・堀池信夫</p> <p>概要 現在、二十四史に含まれる『晉書』は唐代の編纂にかかるもので、史料的に偏向が多いと言われている。唐修『晉書』の原史料となった十八家『晉書』は、断片的ではあるが、類書に散見する。従来から言われてきたような偏向が、果たして『晉書』に存在するのか否か、という問題を『晉書料注』および『十八家晉書』を利用した校補本『晉書』の作成により解明していくことが、本研究の目的である。</p>

〔国際交流講演会〕 東西の古典における「見る」ことの呪性と恋愛 —神話的原型より文学的トポスへ—

(イタリア) カターニア大学外国語外国文学学部講師 ルカ・カッポンチェリ氏

2011.2.19 (土) 15:00 ~ 於：大東文化会館 K-302 研修室

本講演では「見る」ことをめぐる東西の古典比較を主題論として試み、それによって「見る」主体と他者との間ではどのような関係が生じるかを考える。

まず、古代ギリシア・ローマ文化圏の神話に登場するメドゥーサと『故事記』神話のイザナミとの比較を出発点として、両神話において「見る」行為が一種のタブーとしての意味を帯び、それが人間にとって最も他者である<死>の範疇（コスモスに対立するカオス）との交流を断ち切る意味があることを論じる。<生>と<死>の交流を可能とする「見る」行為は、また古代ローマの著述家プルタルコス（しよくたくかんたんしめう）の『食卓歓談集』Quaestio Convivialisに（特に黒海の人々について）言及される「邪視」、あるいは「凶眼」という考え方の根底にもある。但しこの記述では、見る行為には害をもたらすのみではなく、恋愛感情をも引き起こす力があるという一種の二面性が見て取れる。つまりここでは、凶眼と恋愛は対極にありながら、同じ根拠をもった現象であり、「見る」目から放射される流動体によるものだとされている。この考え方は古代ギリシア・ローマ神話の根底にあるだけではなく、古典恋愛詩歌にも頻繁に見られる。例えば『名婦書簡』(Heroides)におけるメデアの恋の悲劇を語るオヴィディウスの詩にも、そしてトルヴァドゥールの詩作品にも、一目ぼれによる恋愛感情が理性の喪失、自己消滅、嘆き等に伴っている。恋愛感情は外部の力によって歌い手の意志を支配するといった例が非常に多い。このように、神話的原型を題材とする詩歌表現において、「目が合う」を中心とする一種の文学的トポスが確認できる。

次に、日本の神話における「目が合う」場面を



取り上げ、このようなトポスは歌の世界においてどのように展開していったかを考察する。神話の場合における「見る行為」の二面性としては、アメノウズメの眼の呪性（睨みあうことで敵に勝つ）と「国造り」、または求婚に関連する「目合」（マグハイ）の例を取り上げる。歌の世界では、「国見歌」における「見る」ことの呪性、または『万葉集』に収録された「一目ぼれ」の相聞歌に焦点を当てる。後者において、恋が歌い手の我を奪う外的な力として描かれることは、先に述べた西洋の詩歌のトポスに非常に似ていることを指摘する。

両文化圏における神話的原型としての「見る」行為が文学的トポスへ展開することを考察した上で、「愛」という現象は個人の力を上回るものであり、恋する人が魔法に取り付かれているかのように、精神的にも、肉体的にも恋に束縛されるということを手を主張する。どちらの場合も、恋愛感情は「見る」ことによって発するものであるから、「見る」行為の呪性と恋愛の問題をこの点に指摘できる。

〔国際交流〕 韓国より東国大学校・威徳大学校の共同研究チーム来訪



韓国の東国大学校および威徳大学校の教員で構成する共同研究チームの7名が、研究課題である「梵語音訳 漢字語の意味体系 深化研究」の調査のため2011年1月20日に来所し、インド思想史専攻の松本照敬教授を囲む勉強会のほか、東洋研究所の全専任研究員6名と昼食会を共にしながら学術的な意見の交換を行った。

■ 1班 = 東洋における異文化の本質的相違性に関する研究

【研究会】場 所：東洋研究所共同研究室

- ①日 時：2010年7月8日(木) 13:00 ~ 15:00
 発表者：岡崎邦彦
 テーマ：「宋子文日記から見た西安事変の実相」
- ②日 時：2010年12月2日(木) 13:00 ~ 15:00
 発表者：山田準
 テーマ：「IT機器の進化と研究活動」

■ 2班 = 歴史的にみた中国の対少数民族政策と少数民族の伝統的社会

【研究会】

- ①日 時：2011年2月25日(金) 15:00 ~ 17:00
 場 所：大東文化会館 4階 401室
 参加者：岡田宏二・村井信幸・加治明・谷口房男・由川稔・岡崎邦彦 6名
 発表者：由川稔
 テーマ：「モンゴル国の鉱物資源開発～事例研究～」

■ 3班 = 中国 21世紀の発展と課題

【研究会】場 所：大東文化会館研修室

- ①日 時：2010年4月17日(土) 15:00 ~ 17:00
 発表者：岡崎邦彦
 テーマ：「2・2事件の全容～事件主犯応徳田の事件総括と張聞天の中共総括」
- ②日 時：2010年5月22日(土) 15:00 ~ 17:00
 発表者：安藤正士
 テーマ：「現代中国の時期区分をめぐる諸問題 (1941 - 2008年)」
- ③日 時：2010年6月19日(土) 15:00 ~ 17:00
 発表者：伊藤一彦
 テーマ：「中国と朝鮮半島問題」
- ④日 時：2010年7月17日(土) 15:00 ~ 17:00
 発表者：小島麗逸
 テーマ：「中国経済60年史 再論」
- ⑤日 時：2011年2月19日(土) 10:00 ~ 13:00
 ※小島麗逸主催「中国経済研究会」と合同研究会
 発表者：上野英詞
 テーマ：「東アジアの海洋を巡る中国の動向と関係諸国の対応」
 発表者：小島麗逸
 テーマ：「資源問題と尖閣列島の関係 続編」

※なお、第3班研究会は、学内外の教員、研究者へ向け公開して研究会を行っています。参加を希望される方は、第3班主任岡崎まで連絡してください。

■ 4班 = 昭和社会経済史の総合的研究

【研究会】

- ①日 時：2010年8月3日(火) 14:00 ~
 場 所：東洋研究所兵頭研究室
 参加者：石井寛治・兵頭徹・大杉由香・小湊浩二
 テーマ：2010年度の研究会実施計画
- (1) 研究報告会の実施計画(日程、発表者の決定)
 (2) 新規参加者(オブザーバー)の承認：佐賀香織
 (3) 『東洋研究』への執筆(兵頭、大杉、小湊)

- ②日 時：2010年12月11日(土) 14:00 ~
 場 所：東洋研究所共同研究室
 参加者：石井寛治・兵頭徹・大杉由香・小湊浩二・佐賀香織
 発表者：兵頭徹

テーマ：戦時下における民間有識者の動向
 -海軍省調査課の囑託を中心として-

- ③日 時：2011年1月28日(金) 14:00 ~
 場 所：環境創造学部ワーキングルーム
 参加者：石井寛治・兵頭徹・大杉由香・小湊浩二・佐賀香織・岡村與子
 発表者：大杉由香

テーマ：戦前日本の災害救済の実態
 -『日本帝国統計年鑑』から考える-

- ④日 時：2011年2月26日(土) 14:00 ~
 場 所：東洋研究所共同研究室
 参加者：石井寛治・兵頭徹・大杉由香・小湊浩二・佐賀香織
 発表者(1)：小湊浩二

テーマ：戦後の公的職業訓練制度の確立とその諸問題
 -日経連と総評の動きから-

発表者(2)：石井寛治
 テーマ：日本型ブルジョアジーのエートス
 -「政治的資本主義」の一事例-

【刊行物】

『昭和社会経済史料集成—昭和研究会資料(7)』
 第37巻 2010年8月31日刊行

■ 5班 = 日中文学の比較文学的研究—『藝文類聚』を中心に—

【研究会】場 所：東洋研究所共同研究室

日時	人数	担当者	テーマ
① 4月24日(土)	5名	芦川敏彦	巻85 訓読
② 5月22日(土)	5名	芦川敏彦	巻85 訓読
③ 6月26日(土)	5名	福田俊昭	巻85 訓読
④ 7月24日(土)	7名	芦川敏彦	巻85 訓読
⑤ 9月18日(土)	7名	芦川敏彦 中林史朗	巻85 訓読
⑥ 10月23日(土)	8名	中林史朗	巻85 訓読
⑦ 11月27日(土)	8名	中林史朗	巻85 訓読
⑧ 12月18日(土)	5名	関 清隆	巻85 訓読
⑨ 1月22日(土)	7名	関 清隆	巻85 訓読
⑩ 2月26日(土)	7名	福田俊昭	巻86 訓読
⑪ 3月20日(土)	6名	芦川敏彦	巻86 訓読

【刊行物】

『藝文類聚』(巻84) 訓読付索引
 2011年2月10日刊行

■ 6班 =大西洋世界とインド洋=太平洋世界を結ぶもの：西欧植民地主義再考

【研究会】

- ①日 時：2010年5月22日（土）
場 所：池袋
参加者：生田滋・岡倉登志・山田準・瀧口明子・齋藤俊輔 5名
テーマ：研究活動報告と情報交換
内 容：研究成果論文集の制作に関する打合せ
- ②日 時：2010年12月4日（土）
場 所：東武練馬
参加者：生田滋・岡倉登志・山田準・瀧口明子・齋藤俊輔 5名
テーマ：研究論文進捗状況
内 容：研究成果論文集の制作に関する予定と打合せ

■ 7班 =唐・李鳳撰『天文要録』の研究（訳注作業を中心として）

【研究会】 場 所：東洋研究所共同研究室

- ①日 時：2010年4月10日（土）
参加者：濱久雄・近藤正則・山下克明・小林春樹（田中良明・大兼寛健）
テーマ：『天文要録』第一冊（巻1）の訳注原稿の作成
内 容：濱氏の訓読試案を全員で検討のうえ、現代語訳、語釈・参考文献の原案作成
※田中良明氏は大東文化大学大学院出身者として、大兼寛健氏は同博士後期課程在学学生として自主参加（以下同様）
- ②日 時：2010年5月9日（土）
参加者：濱久雄・近藤正則・山下克明・小林春樹（田中良明・大兼寛健）
テーマ：『天文要録』第一冊（巻1）の訳注原稿の作成
内 容：濱氏の訓読試案を全員で検討のうえ、現代語訳、語釈・参考文献の原案作成
- ③日 時：2010年6月12日（土）
参加者：濱久雄・近藤正則・山下克明・小林春樹（田中良明・大兼寛健）
テーマ：『天文要録』第一冊（巻1）の訳注原稿の作成
内 容：濱氏の訓読試案を全員で検討のうえ、現代語訳、語釈・参考文献の原案作成
- ④日 時：2010年7月10日（土）
参加者：濱久雄・近藤正則・山下克明・小林春樹（田中良明・大兼寛健）
テーマ：『天文要録』第一冊（巻1）の訳注原稿の作成
内 容：濱氏の訓読試案を全員で検討のうえ、現代語訳、語釈・参考文献の原案作成
- ⑤日 時：2010年9月18日（土）
参加者：濱久雄・近藤正則・山下克明・小林春樹（田中良明・大兼寛健）
テーマ：『天文要録』第一冊（巻1）の訳注原稿の

作成

- 内 容：濱氏の訓読試案を全員で検討のうえ、現代語訳、語釈・参考文献の原案作成
- ⑥日 時：2010年10月9日（土）
参加者：濱久雄・近藤正則・山下克明・小林春樹（田中良明・大兼寛健）
テーマ：『天文要録』第一冊（巻1）の訳注原稿の作成
内 容：濱氏の訓読試案を全員で検討のうえ、現代語訳、語釈・参考文献の原案作成
- ⑦日 時：2010年11月13日（土）
参加者：濱久雄・近藤正則・山下克明・小林春樹（田中良明・大兼寛健）
テーマ：『天文要録』第一冊（巻1）の訳注原稿の作成
内 容：濱氏の訓読試案を全員で検討のうえ、現代語訳、語釈・参考文献の原案作成
- ⑧日 時：2010年12月11日（土）
参加者：濱久雄・近藤正則・山下克明・小林春樹・中村聡・細井浩志（田中良明・大兼寛健）
テーマ：『天文要録』第一冊（巻1）の訳注原稿の推敲
内 容：『天文要録』第一冊（巻1）講読、訳注原稿を全員で推敲
- ⑨日 時：2011年1月15日（土）
参加者：濱久雄・近藤正則・山下克明・小林春樹・中村聡・細井浩志（田中良明・大兼寛健）
テーマ：『天文要録』第一冊（巻1）の訳注原稿の推敲
内 容：『天文要録』第一冊（巻1）講読、訳注原稿を全員で推敲
- ⑩日 時：2011年2月12日（土）
参加者：濱久雄・近藤正則・山下克明・小林春樹・中村聡・細井浩志（田中良明・大兼寛健）
テーマ：『天文要録』第一冊（巻1）の訳注原稿の推敲
内 容：『天文要録』第一冊（巻1）講読、訳注原稿を全員で推敲

【調査】

日 程：2011年1月21日（金）～23日（日）
場 所：京都大学人文科学研究所
出張者：近藤正則
目 的：『天文要録』京都大学人文科学研究所本と、他の版本との字句等の相違点の比較
成 果：人文科学研究所本と尊経閣本との字句を中心とした校訂が完了

【刊行物】

『天文要録』の考察 [一]（小林春樹・山下克明編纂、大東文化大学東洋研究所、2011年3月25日刊行）

■ 8班 =和漢比較文学の研究－「古金石逸文」を中心に
して－

【研究会】

- ①日 時：2010年10月15日（金）13:00～15:00
②日 時：2010年10月30日（土）13:00～15:00
③日 時：2010年11月5日（金）13:00～15:00
④日 時：2010年11月13日（土）13:00～15:00

①～④

場 所：大東文化大学蔵中しのぶ研究室
参加者：蔵中しのぶ・マリア・キアラ・ミリオ
レ・福田俊昭
テーマ：王勃集逸文読解

■ 9班 =茶の湯と座の文芸

【研究会】

- ①日 時：2010年6月29日
場 所：大東文化大学10508教室
参加者：20名
発表者：渡辺信和
テーマ：路地掃除水打事附雪中
内 容：校勘及び本文訓読、語釈
- ②日 時：2010年7月20日
場 所：大東文化大学10508教室
参加者：20名
発表者：三田明弘
テーマ：雪隠戸之事付路地入口戸湿事
内 容：校勘及び本文訓読、語釈
- ③日 時：2010年9月28日
場 所：大東文化大学10508教室
参加者：20名
発表者：松本公一
テーマ：手水湯継置事
内 容：校勘及び本文訓読、語釈
- ④日 時：2010年10月5日
場 所：大東文化大学10508教室
参加者：20名
発表者：相田満
テーマ：石灯笼事付剋限、金灯笼之事付路地行灯
内 容：校勘及び本文訓読、語釈
- ⑤日 時：2010年10月12日
場 所：大東文化大学10508教室
参加者：20名
発表者：濱田寛
テーマ：木灯台短檠行灯之事付灯剋限
内 容：校勘及び本文訓読、語釈

⑥日 時：2010年10月19日
場 所：大東文化大学10508教室
参加者：20名
発表者：佐藤信一
テーマ：座敷掃除畳敷様之事
内 容：校勘及び本文訓読、語釈

⑦日 時：2010年10月26日
場 所：大東文化大学10508教室
参加者：20名
発表者：安保博史
テーマ：座中窓替戸之事付簾障子
内 容：校勘及び本文訓読、語釈

⑧日 時：2010年11月16日
場 所：大東文化大学10508教室
参加者：20名
発表者：蔵中しのぶ
テーマ：偃戸之事付湿様
内 容：校勘及び本文訓読、語釈

⑨日 時：2011年1月28日
場 所：大東文化大学蔵中しのぶ研究室
参加者：蔵中、谷、学生16名
内 容：巻三校正

⑩日 時：2011年2月7日
場 所：大東文化会館
参加者：学生のみ3名
内 容：国会図書館本の本文データ作成

【刊行物】

『茶譜』巻三 注釈
2011年3月25日刊行

■ 10班 =『晉書』の研究

①日 時：2010年12月7日
場 所：東洋研究所共同研究室
参加者：16名
発表者：町田隆吉
テーマ：日本における『晉書』の受容
内 容：日本の平安期を中心とした資料に、『晉書』
がどのような影響を与え、受容されている
のか、そこにいかなる特徴があるのかにつ
いて、報告が行われた。

◇研究員消息◇

福田 俊昭（東洋研究所教授）

さきに、学位論文『李嶠と雑詠詩の研究』で大東文化大学論文博士（中国学）の博士号が授与されたが、このたび同書の刊行に際し、平成23年度科学研究費補助金（研究成果公開促進費）に採択され、近く刊行の運びとなった。

■人 事

東洋研究所所長に委嘱

【再任】山田 準

(期間：2011年4月1日～2013年3月31日)

管理委員会委員に委嘱

【新任】篠永 宣孝・田辺 清

(期間：2011年4月1日～2013年3月31日)

兼任研究員に委嘱

【新任】篠永 宣孝・原 隆一

(期間：2011年4月1日～2013年3月31日)

兼任研究員に委嘱

【新任】植松 希久磨・マリア・キアラ・ミリオーレ・堀池 信夫

(期間：2011年4月1日～2013年3月31日)

特別兼任研究員に委嘱

【新任】生田 滋

(期間：2011年4月1日～2012年3月31日)

東洋研究所事務室

宍戸 哲夫 2011年4月1日付
東洋研究所事務室事務長に配置換え
大山 郁子 2011年4月1日付 専門嘱託採用

■名 簿

東洋研究所管理委員会委員 (8名)

山田 準 (所長・専任研究員)
福田 俊昭 (専任研究員)
松本 照敬 (専任研究員)
兵頭 徹 (専任研究員)
片岡 弘次 (兼任研究員)
篠永 宣孝 (兼任研究員)
田辺 清 (兼任研究員)
渡邊 義浩 (兼任研究員)

所長・専任研究員 (6名)

所 長
山田 準 教 授 (東西交渉史・貿易史)

研究員
福田 俊昭 教 授 (日中比較文学・中国文学史)
松本 照敬 教 授 (インド思想史)
兵頭 徹 教 授 (日本経済史)
岡崎 邦彦 准教授 (中国政治経済)
小林 春樹 准教授 (東洋哲学)

事務室 (3名)

事 務 長 宍戸 哲夫
専 門 嘱 託 大山 郁子
アルバイト 伊東 知子

兼任研究員 (24名)

日吉 盛幸 (文・日本文学科 教授)
浜口 俊裕 (文・日本文学科 准教授)
中林 史朗 (文・中国学科 教授)
渡邊 義浩 (文・中国学科 教授)
村井 信幸 (文・中国学科 准教授)
岡倉 登志 (文・英米文学科 教授)
内藤 二郎 (経・社会経済学科 教授)
篠永 宣孝 (経・社会経済学科 教授)
藏中しのぶ (外・日本語学科 教授)

齊藤 哲郎 (法・政治学科 教授)
中村 昭雄 (法・政治学科 教授)
武田 知己 (法・政治学科 准教授)
内田 知行 (国・国際関係学科 教授)
柴田 善雅 (国・国際関係学科 教授)
瀧口 明子 (国・国際関係学科 准教授)
新里 孝一 (国・国際関係学科 准教授)
井上 貴子 (国・国際文化学科 教授)
岡田 宏二 (国・国際文化学科 教授)
片岡 弘次 (国・国際文化学科 教授)
田辺 清 (国・国際文化学科 教授)
鹿 錫俊 (国・国際文化学科 教授)
原 隆一 (国・国際文化学科 教授)
大杉 由香 (環・環境創造学科 准教授)
小湊 浩二 (環・環境創造学科 講師)

兼任研究員 (29名)

相田 満 (国文学研究資料館助教)
芦川 敏彦 (浜松学芸中・高等学校非常勤教諭)
安保 博史 (群馬県立女子大学教授)
安藤 正士 (筑波大学名誉教授)
池田 雅典 (大東文化大学非常勤講師)
石井 寛治 (東京大学名誉教授)
石井 仁 (駒澤大学准教授)
伊藤 一彦 (宇都宮大学教授)
上野 英詞 (海洋政策研究財団調査役)
植松 希久磨 (大東文化大学非常勤講師)
窪田 道夫 (筑波大学産学リエゾン共同研究センター)
小坂 真二 (陰陽道研究者)
小林 聡 (埼玉大学教授)
小林 龍彦 (前橋工科大学教授)
近藤 正則 (岐阜女子大学教授)
齋藤 俊輔 (日伯学園日本語教師)
仙石 知子 (駿河台大学非常勤講師)
高橋 康浩 (駒澤大学非常勤講師)
谷口 房男 (東洋大学名誉教授)
中村 聡 (玉川大学教授)
中村 士 (帝京平成大学教授)
成田 守 (大東文化大学名誉教授)
細井 浩志 (活水女子大学教授)
堀池 信夫 (筑波大学名誉教授)
町田 隆吉 (桜美林大学教授)
マリア・キアラ・ミリオーレ (イタリア国立サレント大学教授)
矢ヶ崎 善太郎 (京都工芸繊維大学大学院准教授)
山下 克明 (国際日本文化研究センター共同研究員)
由川 稔 (ベネフル総合研究所企画部マネージャー)

特別兼任研究員 (8名)

生田 滋 (大東文化大学名誉教授)
遠藤 光正 (無窮会理事、東洋研究所元所長)
加治 明 (大東文化大学名誉教授)
小島 麗逸 (大東文化大学名誉教授)
近藤 邦康 (東京大学名誉教授)
進藤 英幸 (了徳寺大学特任教授)
中島 宏 (中国研究所研究員)
濱 久雄 (無窮会専門図書館長)

2010年度東洋研究所会議報告

■管理委員会

①日 時：2010年6月24日（木）10:30～

場 所：東洋研究所共同研究室
（議案）

1. 2009年度共同研究予算執行状況について
2. 2011年度兼任研究員の人事について
3. 2010年度共同研究予算積算について
4. 2011年度共同研究部会一覧について
5. 2011年度共同研究計画書（案）について
6. 2011年度共同研究予算一覧（案）について
7. 2010年度公開講座の開催について
8. 2010年度『東洋研究』の発行について
9. 2010年度年度認証評価報告書における改善実施計画書等の作成について
10. 2010年度東洋研究所出版計画（案）について

②日 時：2010年12月16日（木）10:30～

場 所：東洋研究所共同研究室
（議案）

1. 2010年度公開講座の実施について
2. 東洋研究所刊行物の発行状況について
3. 東洋研究所所長の人選について
4. 東洋研究所管理委員会委員の推薦について
5. 2011年度東洋研究所の人事について
6. 2011年度兼任依頼について
7. 2011年度兼職について
8. 2011年度予算積算について
9. 2011年度東洋研究所刊行物の企画について
10. 2010年度研究員総会、国際交流（講演会）の実施

について

③日 時：2011年2月19日（土）13:00～

場 所：大東文化会館 K-0403
（議案）

1. 東洋研究所刊行物の発行状況について
2. 大東文化大学に対する大学評価（認証評価）結果（委員会案）について
3. 兼任研究員の学部依頼取下げについて
4. 「東洋研究」編集委員長の人選について
5. 大東文化大学東洋研究所規程改正の対応について
6. 研究員総会および国際交流講演会について
7. 東松山市きらめき市民大学への講師派遣について
8. 海外渡航について

■所内会議

① 4月15日（木）10:00～

② 5月13日（木）10:00～

③ 6月10日（木）10:00～

④ 7月 8日（木）10:00～

⑤ 9月16日（木）10:00～

⑥ 10月14日（木）10:00～

⑦ 11月11日（木）10:00～

⑧ 12月 2日（木）10:00～

⑨ 1月13日（木）10:00～

⑩ 2月17日（木）10:00～

■共同研究部会主任会議

① 5月20日（木）10:30～

2010年度発行『東洋研究』

□東洋研究 第176号（2010年7月25日発行）

福田 俊昭…『朝野僉載』に見える嘲諷説話
小林 春樹…『漢書』帝紀の著述目的—「高帝紀」から「元帝紀」を中心として—
兵頭 徹…海軍省調査課と嘱託の役割（六）—海軍に正しい世界観を求めて—
松本 照敬…ラーマーヌジャ思想の研究（7）

□東洋研究 第177号（2010年11月25日発行）

成田 守…『御船哥』について
安保 博史…几薫俳諧と李白伝説—几薫句「花火尽て美人は酒に身投げけん」考—
岡倉 登志…ラビンドラナート・タゴールの思想と行動—タゴール生誕百五十周年によせて—
大杉 由香…戦前日本における火災問題—過去の火災は現在に何を物語るのか—
小湊 浩二…戦後の公的職業訓練制度の確立とその諸問題—日経連と総評の動きから—

□東洋研究 第178号（2010年12月25日発行）

小坂 真二…御体御と陰陽道
中村 聡…中国近代化における西欧宣教師の影響—民主思想の紹介—
柴田 善雅…東満州産業株式会社と周辺会社の活動—「鮮満一体」経営を超えて
岡崎 邦彦…1937年西北善後処理問題（中）—南京と西安の交渉と内戦危機
齋藤 俊輔…タウンゲー王朝とアユタヤ王国の抗争における火器の役割（1498年—1605年）
新里 孝一…ケアと＜依存＞

□東洋研究 第179号（2011年1月25日発行）

大谷 光男…金印蛇紐「漢委奴国王」に関する管見
渡邊 義浩…王莽の革命と古文学
池田 雅典…光武帝の圖讖信奉
高橋 康浩…韋昭『漢書音義』と孫呉の「漢書學」
濱 久雄…清代における漢易の展開—惠棟の『易漢学』を中心として—

新刊案内



『天文要録』の考察 [1]

小林 春樹・山下 克明 編

2011年3月25日発行／B5判 107頁／頒価¥3,000 (税別)

唐の李鳳が撰した『天文要録』全五十巻の第一巻(尊経閣文庫本の第一冊)の原文を翻字したうえで、訓読文、現代語訳、そして語釈・参考資料を施すとともに、関連する論文一篇を付した、当該書に関する斯界初の専著である。



『藝文類聚』(巻84) 訓読付索引

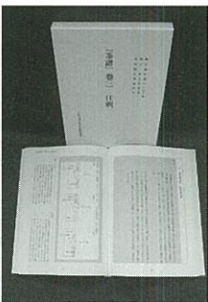
大東文化大学東洋研究所『藝文類聚』研究班 代表 福田 俊昭

2011年2月10日発行／B5判 93頁／頒価¥4,000 (税別)

『藝文類聚』は中国の類書の中でも早い成立に属する類書で、日本文学への影響は計り知れないものがある。本書はその『藝文類聚』を巻ごとに訓読文を施し、四部叢刊に採録されている作品については校異を付し、最後に重要語彙索引を掲載したものである。

巻84は、「寶玉部下」の璧 珠 貝 馬瑙 瑠璃 車渠 瑋瑁 銅を収録している。

《既刊》巻1～巻16、巻80～巻83



『茶譜』巻3 注釈

藏中しのぶ・福田 俊昭・相田 満・安保 博史・矢ヶ崎 善太郎・渡辺 信和 共著

2011年3月25日発行／B5判 186頁／頒価¥7,000 (税別)

『茶譜』全18巻は、茶道流派の生成がきざし始めていた寛文年間(1661～1673)頃の成立とされ、茶道全般におよぶ総合的な類聚編纂書である。各項目について、千利休流・小堀遠州流・古田織部流・金森宗和流等、流派のちがいを対照的に提示しつつ、茶の湯や茶室にかかわるさまざまな記事を類聚編纂した茶道百科事典ともいべき性格を備えている。

《既刊》巻1、巻2



『昭和社会経済史料集成』 第37巻 昭和研究会資料(7)

兵頭 徹・大久保 達正・永田 元也 編集

2010年8月31日発行／A5判 472頁／頒価¥7,000 (税別)

昭和研究会は、後藤隆之助(1888～1984)主宰のもと昭和8年に発足した民間国策研究機関で、近衛文麿(1891～1945)のブレーン・トラスト集団である。政治、外交、経済、社会、教育、文化等の分野に当時一流の有識者が数多くの政策研究案を立案した。

《既刊》第1～30巻 海軍省資料(1)～(30) 第31～36巻 昭和研究会資料(1)～(6)

☆この他の東洋研究所刊行物についてはホームページをご覧ください。

刊行図書取扱店

■汲古書院

〒102-0072 東京都千代田区飯田橋2-5-4
TEL (03) 3265-9764

■池上書店(大東文化大学板橋校舎内)

〒175-8571 東京都板橋区高島平1-9-1
TEL (03) 3932-7567

■進明堂(大東文化大学東松山校舎内)

〒355-8501 埼玉県東松山市岩殿560
TEL (0493) 34-4430

大東文化大学東洋研究所所報 No.55

2011年6月30日発行

編集・発行 大東文化大学東洋研究所

〒175-0083 東京都板橋区徳丸2-19-10

TEL(03)5399-7351 FAX(03)5399-8756

E-mail : tokenji@ic.daito.ac.jp

URL <http://www.daito.ac.jp>

印刷 (株)東京技術協会